更生施設 本木荘保護施設通所事業（定員：通所２２人・訪問３人）〔平成２９年度事業報告〕

１　事 業 総 括

１年を通して、大きな事故等なく、利用者の地域生活を支えることができた。新規開始者数は、通所事業において前年度を若干数上回った。月初の定員充足率（通所、訪問）は、事業終了者との調整や必要に応じた事業延長を的確に行ったため、前年度87.6%を上回る、91.0%となった。

施設サービス（食事、洗濯、入浴）や『本木荘トライワーク・プログラム』を利用する方は、常に6割を超えており、日中活動の場として定着した。毎日、通所する利用者もいる。

借り上げアパート事業を積極的に活用し、実践的なアパート訓練を行った。平成29年度は、借上げアパートから5名の利用者の地域へのアパート転居を支援できた。生活継続が困難になった1名は、本木荘に再度入所受け入れした。

施設から地域生活への移行は、環境の変化が大きく生活が不安定になりがちである。毎月の通所懇談会、年7回の行事を開催したことで、単調になりがちなアパート単身生活を支えた。また、生活意欲向上の喚起、教養娯楽の提供にも努めた。

視認性の高い安否確認を徹底し、連絡がとれない場合は、迅速に緊急訪問を実施した。安否確認の基準日を週中にすることで、緊急訪問の職員体制作りを容易なものとした。

	定　員	２９年度実績 新規開始数（対定員利用率）	２８年度実績 新規開始数（対定員利用率）
通 所	２２人	１２人（５４．５%）	１１人（５０．０%）
訪 問	３人	２人（６６．６%）	２人（６６．６%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	21	22	22	21	21	22	21	22	20	20	21	22	21.25
訪問	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1.33

２　主 要 目 標 に 対 す る 成 果

（１）本木荘トライワーク・プログラム等を活用した支援の提供

更生施設の機能を最大限に活用した。施設入所時からのプログラムに継続的に参加することで、地域生活の安定を図った。終了者含め、12名の利用者がプログラムに参加し、リズムある生活と生きがい作りにつながっている。引きこもることのないように、はたらきかけた。

（２）安定した地域生活継続に向けた支援の実施

利用者の希望を尊重した支援計画の作成を行い、地域生活の維持と生活向上に努めた。個別の就労支援や金銭管理を行い、地域生活の定着支援を実施した。また、通過型の通所事業として、通所事業終了後の地域生活を見据えた支援を実施した。

（３）福祉事務所をはじめとする関連機関と連携した包括的な支援の実施

福祉事務所・病院等の関連機関と密に連携し、ケースカンファレンスを定期的に実施した。関係機関と密接な連携をとることで、隙間のない包括的な支援の実践に取り組んだ。

（４）定期的な安否確認による利用者の安全確保

安否確認は職場全体で緊張感を持って実施した。必要に応じて、緊急訪問を迅速に実施した。体調不良や生活上に問題が発生した時は、いつでも施設に相談するように伝えている。

３　運 営 管 理

（１）日常の援助　⇒看護師による健康相談を実施した。必要があれば、服薬管理を実施した。所内作業では、作業懇談会を実施して利用者個々の「主体性」を高める取組みを行った。

（２）個別プログラム　⇒

・利用者の生活能力についてアセスメントを実施したうえで、生活能力向上を図った。
・支援が必要な事項について、金銭管理、衛生管理、就労活動、関係機関との連絡調整等の支援を実践した。通過型の通所事業として、通所事業終了後の地域生活を見据えた支援を実施した。
・デイケア通院している各種依存症の利用者に対しては、医療機関と連携して、居宅生活を支えた。
・借り上げアパート（4室）を積極的に活用した。アパート生活継続が困難になった場合は、本木荘に再度入所受け入れした（1名）。バックアップセンターの住宅相談事業を活用した。
・通所利用者に対して就労継続支援を的確に行った結果、2名が自活で事業終了となった。
・精神状態の悪化等に陥った場合には、必要に応じて迅速に緊急訪問や施設緊急宿泊を実施した。
・安否確認は、視認性の高いボードを活用し、全ての職員が現況把握を容易にできた。

（３）諸行事　⇒毎月の通所懇談会、調理実習、夏祭り、バーベキュー、散策会、ボウリング会、食事会、もちつき大会、カラオケ会を計画的に実施した。